

平成 2 9 年
第 3 回（9 月）波佐見町議会定例会

町政に対する一般質問

波佐見町議会

通告順位	1	通 告 者	1 番 城 後 光 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. スポーツ振興について</p> <p>波佐見高校が全国高校野球選手権大会に出場し、町民に大きな感動を与えてくれた。開幕カードでの登場ということもあり、波佐見の知名度アップにも大きく貢献したのは間違いない。この野球部の活躍は、町民はもとより全国からの本町及び波佐見高校への支援はもちろんのこと、少年野球世代から各地域において、野球選手の育成に尽力された関係者の努力の賜物である。野球少年の将来的な活躍のためにも、継続的に町を挙げて野球活動支援に取り組むべきと考える。</p> <p>(1) ふるさと納税の寄附金対象として、使途を少年野球育成に限定した支援を行う考えはないか。</p> <p>(2) 企業版ふるさと納税の対象として、地方創生事業として少年野球環境支援が検討できないか。</p> <p>2. 地域おこし協力隊について</p> <p>6月末をもって、本町における地域おこし協力隊第一期生が3年間の任期満了を迎えた。三名の協力隊員はそれぞれ各担当分野において、正規職員ではできない活躍をされた。その後、複数回の募集が行われているが、後任者の採用は決まっていない状況である。</p> <p>(1) 一期生である三名の協力隊員からは、活動についてどのような課題が寄せられたのか。</p> <p>(2) 今後採用を行う協力隊員には、どのような活動を望んでいるか。</p> <p>(3) 協力隊員の任期終了後の継続的な事業支援についての考え方は。</p> <p>3. 企業誘致および既設企業支援について</p> <p>進出企業の事業拡大に伴い、町営工業団地はすべての敷地が売却されることになった。これまで、企業誘致については工業団地への進出を前提として取り組みが進められてきた。一方で、基幹産業としての窯業界向けに生地製造者の人材育成支援が行われている。</p> <p>(1) 工業団地造成が始まった平成 25 年以降、町内における法人数の推移はどうか。</p> <p>(2) 今後の企業誘致に対する基本方針はどうか。</p>		

	(3) 生地製造業後継者育成については、継続的な事業継続の難しさが当事者より聞かれる。特に指摘が多い研修生向けの住宅補助など、さらなる支援を拡大する考えはないか。
質問の相手	町 長

通告順位	2	通 告 者	2 番 横 山 聖 代 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 不登校対策について</p> <p>病気や経済的理由を除いて、年間30日以上学校を休む、いわゆる不登校の小中学生が、平成27年度全国で12万6千人を超えている。小中学校とも、子どもの総数は減っているにもかかわらず、3年連続で増加している。</p> <p>また、今年2月、教育機会確保法が施行された。この法律は、学校外の学びの重要性や休養の必要性も認めつつ、一人ひとりの状況に合ったやり方、学習権を保障し、不登校の児童・生徒の意思を十分に尊重して必要な支援を行い、国や自治体にフリースクールなどとの緊密な連携を求めている。</p> <p>(1) 小中学校の不登校の児童・生徒は何人いるのか。また、学校に行かない、あるいは行けない理由は把握しているか。</p> <p>(2) 教育機会確保法の施行を受けて、不登校の児童・生徒の受け皿をいかに拡充し、学びの機会をどう確保するのか。</p>		

通告順位	3	通 告 者	3 番 三 石 孝 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 道路行政について</p> <p>本町の道路網は、県道を中心に町道や里道、また農道や林道が管理・整備されている。特に町道と併設される歩道は町民の生活面を支える最も重要な道路である。同様に農道においても農業の経済活動には欠かせないものとなっている。そこで、町道（歩道を含む）と農道の整備等に関して次のことを問う。</p> <p>(1) 町道の管理・整備について、現状と計画はどうなっているか。また、里道等改修補助金の活用状況はどうか。</p> <p>(2) 農道の管理・整備について、現状と計画はどうなっているか。また、小規模農林事業の活用状況はどうか。</p> <p>2. 建物行政について</p> <p>現在進行中の公共事業は、旧講堂兼公会堂修復工事で中学校武道館改築工事の二つであるが、どちらも高額な建設費で進められている。一方庁舎建設に関しても基金が積み立てられ、数年後の建設が予定されていると聞く。このような状況の中、新たに歴史文化交流館（仮称）の建設見直しが検討されている。そこで次のことを問う。</p> <p>(1) 継続予算の取り下げから間もないが、どのような検討をされたのか。</p> <p>(2) 予算の見直しはされたのか。</p> <p>(3) 起債の多発で、町財政の健全化は今後保てるのか。他の事業を圧迫することはないか。</p> <p>3. 地場産業支援事業について</p> <p>地場産業の後継者対策の一環として、窯業人材育成産地支援事業が実施されているが、現状と今後の展開について問う。</p> <p>(1) 現状についての問題点はないか。</p> <p>(2) 事業の目的は達成できているか。</p> <p>(3) 事業の継続はどうか。</p>		

通告順位	4	通 告 者	11番 太 田 一 彦 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 役場庁舎の駐車場の現状と車両及びその管理等について</p> <p>(1) 現在、役場の駐車場は何台とめられるのか。職員（臨時職員等も含む）の車両と公用車は合計で何台か。借用している駐車場は何台とめられるか。シルバー人材センターやその他通常、当該駐車場を使用している車の台数は。</p> <p>(2) 住民や来客用に準備してある駐車スペースは何台分か。現状では駐車スペースは飽和状態であるが改善策はあるか。</p> <p>(3) 公用車は何台あるか。また、それにかかる経費は総額でいくらか。台数及びそれらにかかる経費は適正か。車両の管理等はどのように行われているか。更新時期をどのように決めているか。</p> <p>(4) 緊急時において、現状の駐車場の運用で対応できるのか。</p> <p>(5) 特に駐車場のことを念頭において、新庁舎建設を考えた場合、検討委員会で現在地に建替えをする検討もされているのか。</p> <p>2. 緊急時の訓練は行われているか。特にJアラートの発令時の対応はどのようになっているか。</p>		

通告順位	5	通告者	4番 北村清美 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 人口減少社会におけるまちづくりについて</p> <p>(1) 近年、特に東地区において人口減少は顕著である。本町の18年後（平成48年）の人口は15,000人から、12,900人に減少すると予想される。およそ15%減の人口推移がでていますが、この数字の信憑性とその対策は。</p> <p>(2) 消防団は地域防災になくてはならない組織で、現在、本部を含め9分団あり、今後、運営の問題点は団員の確保と自治会負担のアップが考えられる。世帯数が多い自治会はいいが、大幅に減少する地区は大きな負担増になる。その対策は。</p> <p>(3) 自治会運営も人口減で苦しくなっており、郷費も地区によっては3倍の開きがある。町は実態を把握しているのか。また、町道の整備を早急に進められないのか。併せて地域振興補助金の率のアップ等はできないのか。</p> <p>(4) 今後、町の予算は人口減で、町税等は減少し財源の確保が困難になる。減少する歳入に対して、同じように歳出も削減するのか。また、しないとなればどうしてなのか。今後の予算はどのような見通しなのか。</p> <p>(5) 歳出は大変厳しくなると思われるが、今後の大型事業（歴史文化交流館運営費等）は増えないのか。また、近い将来、人口減少によって小学校の統廃合が考えられるが、統廃合による問題点は。</p> <p>(6) 人口減少社会におけるまちづくりの対策として、町や自治会、民間、学識経験者等で対策委員会の設置が必要ではないか。</p>		

通告順位	6	通 告 者	5 番 脇 坂 正 孝 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 「はさみ炎まつり」の見直しについて 平成28年12月定例会で、「はさみ炎まつり」について、名称に農業関係をイメージできる言葉を加えるとともに、シャトルバスの運行復活を要望する質問を行った。 これに対し、「炎まつりも20回を迎えマンネリ感や疲労感も感じることから、まつりの内容や開催の在り方、更には名称についても、来年度に向けて、関係団体とも連携を図りながら総合的に検討したい」という旨の回答をされた。 秋の開催となると、時期も迫ってくるが、今年度以降の開催はどのように見直しをされたのか。又は、される予定なのか。</p> <p>2. 野球場建設に向けた取り組みについて (1) 本町の野球に対する興味や関心は、他の地域に比べかなり高いと思われる。マスコミでも「町民の野球熱が非常に高い」等と紹介されるほどである。 各種野球大会での活躍も目覚ましく、今年の夏も小・中・高校とも全国大会や九州大会等に県代表として出場している。このような状況の中、過去においても町議会で、野球場建設の要望が度々提案され、議論されているが、いずれも予算不足等の理由で、時期尚早的な答弁である。 しかし、最近の各チームの活躍や、町内の野球熱の盛り上がり等を考えると、野球場建設の機運は以前にも増して高まっていると思う。町の更なる活性化のため、青少年の健全育成、スポーツ振興の面からも野球場建設に向けて取り組んではどうか。</p>		

通告順位	7	通 告 者	1 2 番 堀 池 主 男 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 旧永尾分校について</p> <p>東小学校旧永尾分校は、地域住民の陳情によって、明治35年4月に「波佐見尋常小学校永尾分教場」として開校。昭和31年に「波佐見町立東小学校永尾分校」と改称、昭和61年に新校舎が完成し、平成27年3月31日、永尾分校を廃止され111年の歴史に幕を閉じた。次の点について問う。</p> <p>(1) 閉校してから約2年5カ月が経過するが、この間、施設をどんなことに活用されたか。</p> <p>(2) 施設は、地元自治会と覚書か約束事があるのか。</p> <p>(3) 施設の維持管理は、どうなっているのか。</p> <p>(4) 将来的にこの施設をどうする考えか。</p> <p>2. 消防行政について</p> <p>(1) 消防分団運営費補助金が平成28・29年度の予算書にいずれも、858,000円が計上されているが、増額する考えはないか。</p> <p>(2) 防災のためにも利用している有線放送のポールや配線の新設、増設、取換の必要な場合、九州電力の電柱を利用出来るようお願いする考えはないか。</p> <p>(3) 各自治会からの消火栓・防火水槽設備の要望書や陳情書の取り扱いは、どうなっているか。</p> <p>(4) 波佐見町地域防災計画書の中に消火水利施設として消火栓421カ所、防火水槽178カ所、合計599カ所があるが、各分団に全町の位置図があるのか、それとも各分団内の施設分だけなのか。</p> <p>3. 地域振興補助金について</p> <p>(1) 地域振興補助金交付要綱の一部改正をされたが、有線放送施設のA、B、C地区の補助率を80%に再度見直す考えはないか。</p> <p>(2) 地域振興補助金の交付までの事務手続きをもっと簡素化できないか。</p>		